

脳出血について

こじま脳神経外科・内科クリニック
236-0042 横浜市金沢区釜利谷東6-21-1
電話 045-791-3177

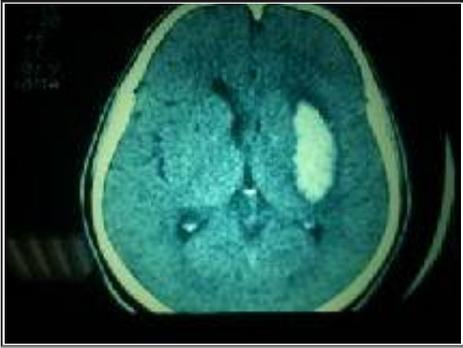
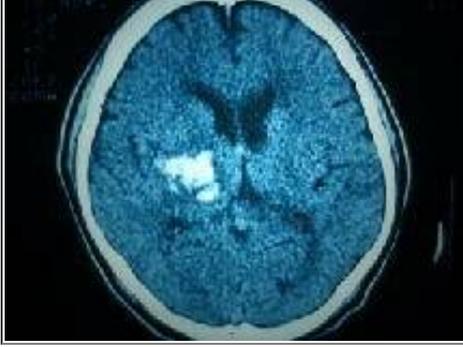
脳梗塞とならんで脳の病気に多いのが脳出血です。

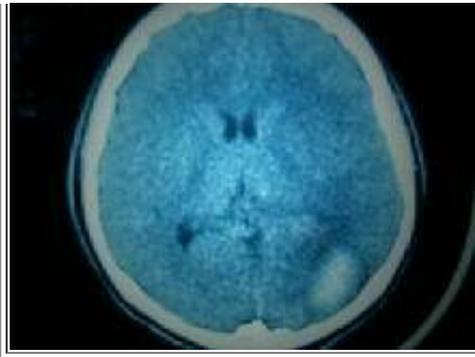
これまで救急で来院される患者さんの血圧は180-220と高いことが多く、原因の多くは高血圧です。つまり脳出血を予防するには血圧管理が重要になります。

普段の血圧が160を超える人は降圧剤の内服を開始してください。

普段の血圧が140程度でも時に180になる方がおられますが脳出血は一時的でも180を超えたときに出血を起こします。ですから上がっても160以内にとどめることをお勧めします。

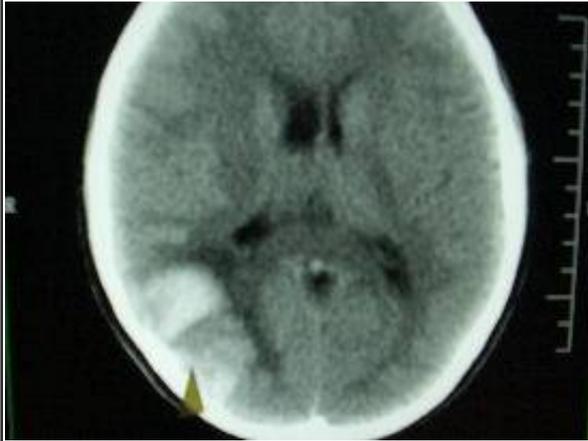
以下にさまざまな脳出血のCT所見を示します。

	左は左被核出血のCTです。右半身麻痺で入院され手術しないで1か月ほどのリハビリで日常生活が可能となりました。
	左は左視床出血で脳室内出血を併発している患者です。この患者さんは内包という神経の通り道が障害されていたため右半身麻痺が残り杖歩行になりました。
	左は小脳出血の患者です。水頭症を併発したため開頭血腫除去術を行いました。しばらくめまいが残りましたが独歩で退院しました。
	左は右視床出血です。軽度に左半身麻痺を残し独歩退院した。不全麻痺に加えて左半身のしびれが残っています。



左後頭葉の皮質下出血の患者です。一時視野障害がありました。改善し独歩退院しました。この患者さんは手足の麻痺はありませんでした。

脳動静脈奇形の破裂による脳出血の画像



矢印の先に見える部分が脳出血です。高血圧脳出血と違って脳の表面に出血があります。

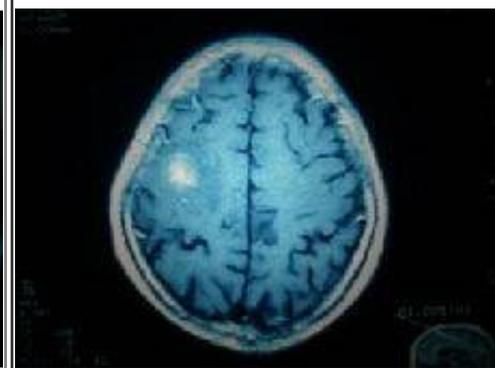


造影剤を点滴した後のCTです。白くうねうね塊に見える部分が血管奇形の本体です。この方は脳出血を合併していたので手術で切除しました。

脳出血のCTとMRI所見の比較



上は右前頭葉皮質下の脳出血のCTです。白く見える丸い部分が脳出血です。周りの黒く見える部分は脳浮腫と言って脳のむくみを示しています。



上は同じ患者さんのMRI所見です。MRIでは出血の血の変化(メヘモグロビン)の量で所見が変化します。出血の中心部分は白く見えますが周辺は血の変化のため不鮮明になっています。脳出血に関してはCTの方が即座に検査でき有効な検査と考えます。くも膜下出血についても同様です。